

第2回特別支援学校設立準備委員会(令和7年7月15日開催) 議事録

(1) 設置方針(案)について

- ・ 重度重複障がいの子どもの受入れについて、設立当初から検討して、取り残さないようにしていくべきである。
- ・ 重度重複障がいの子どもの受入れについて、学校を運営する中でニーズ把握等を行い、検討していく必要がある。
- ・ 子どもの就学先は、子どもにとって一番安心して成長ができる最良の学びの場はどこかという視点で考えていく必要がある。
- ・ 小中学校と特別支援学校の先生たちが、校内で助け合いや助言をしあえる中で、学校運営が進むようにして欲しい。
- ・ 併置される小中学校の先生も、どのような学校になるのか現時点ではイメージしづらいと思う。併置校を決まったところで、教職員や児童にも説明をしながら進めていく必要がある。
- ・ 基本理念にあるフラッグシップ校の表現について、小中学校と特別支援学校が合わさり、松本市のインクルーシブ教育のフラッグシップ校になるという表現に変えるべきである。
- ・ スケジュールに合わせ、対象となる児童の保護者への説明や放課後等デイサービスの提供事業者などにも情報提供をしていく必要がある。

第2回特別支援学校設立準備委員会(令和7年7月15日開催) 議事録

- ・有力候補の源池小学校については、歴史的にも特別支援教育に取り組んできた学校である。また、今の「総合的な学習の時間」に相当する児童主体の学習を「みどりの時間」として、長年取り組んでいる。特別支援学校と源池小学校が一体となって学ぶ機会になるのではないかな。

(2) 設置場所について

- ・源池小学校近くのあがたの森公園は、広い公園であり、多くの人が集まることから、特別支援学校の活動も広がると思う。また、高校なども近隣にあることから、交流の可能性を感じる。
- ・清水中学校は、交通の便もよく、校地にゆとりがある。
- ・中心市街地では、学校周辺道路が渋滞もすることから、送迎のルールや、校内での安全な動線や乗降場所の確保の検討も行う必要がある。
- ・職員数の増加に合わせて、職員駐車場の確保が課題になる。
- ・プレイルームは、児童数に応じて広い面積を確保し、天井も高い方が良い。更衣室の整備は必要
- ・学校によっては廊下が暗いことがあり、暗さに抵抗感を持つ子どもいる。学校施設の照明や材質について、様々な児童がいることに配慮して検討する必要がある。